

令和 5 年度

事務所だより 第 2 号

令和 5 年 6 月 20 日
益田教育事務所



「ChatGPT（対話型 AI）は教育現場の敵か？味方か？」

調整監 松元 善生

益田市教育委員会から異動となり、4月より益田教育事務所調整監を拝命いたしました。精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、最近「ChatGPT」という単語をよく耳にします。ChatGPTとは対話型 AI（人工知能）で、文字や音声により質問すると、その問いに即した回答が得られます。単語と単語の前後の関係性をもとに、次に来る単語を予測する形で文章を生成するそうです。私も使ってみました。質問後、瞬時に答えが返ってくることに驚きました。

「使わなくても大丈夫」という声が聞こえてきそうですが、果たしてそうでしょうか。昨年 1 1 月の公開からわずか 2 カ月で、世界におけるユーザー数が 1 億人を超え、その普及スピードは SNS のインスタグラムや TikTok を遙かに上回っています。しかも、Edge や GoogleChrome といったブラウザベースでしか活用できなかった ChatGPT が、先月末からアプリ化され、スマートフォンでも気軽に使えるようになる等、更に普及に拍車がかかっています。

官公庁、企業等でも活用や検討が既に進んでいます。先日、西村経済産業大臣が ChatGPT を国家公務員の業務負担軽減のため、活用の検討をすることを表明したのをはじめ、ソフトバンク社等、大手の企業も積極的な活用を表明しています。

これだけ社会で急激に普及が進めば、当然教育現場も影響を受けます。今後子ども達の利用も加速するでしょう。もしかしたら、既に子どもたちの中でも活用が密かに、急激に進んでいるかもしれません。

そうした中、文部科学省は 5 月 1 6 日、ChatGPT をはじめとする生成 AI の学校現場での取扱いについて議論する「デジタル学習基盤特別委員会（以降「特別委員会」とする）」の初会合を開きました。生成 AI の活用が考えられる場面や授業アイデア、校務の負担軽減等の可能性を盛り込み、今年度夏前を目途に、ガイドラインを公表することとしました。

なお、特別委員会では、学校現場での利用に関する今後の対応として 2 点掲げています。

- ・学校現場での生成 AI の利用については、様々な議論や懸念がある
→批判的思考力や創造性への影響、個人情報や著作権保護の観点等についてリスクの整理が必要
- ・一方、学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」を位置付けている。新たな技術である生成 AI をどのように使いこなすのかという視点や、自分の考えを形成するのに活かすといった視点も重要

※「第 1 回デジタル学習基盤特別委員会資料」より引用

※太字、下線部は原文ママ



要するに、ChatGPT は活用方法等によっては教育現場の敵にも味方にもなり得る存在です。しかし、これは ChatGPT に限らず、これまで世の中に登場してきた新しい技術、システムは常にそういった存在でした。よって情報モラルを含む情報活用能力の育成が、今後ますます重要視されるのではないのでしょうか。

「不登校」の支援にあたって



益田教育事務所 岩崎真人
益田市派遣 植田幸司
津和野町派遣 渡邊純一
吉賀町派遣 高橋晶子

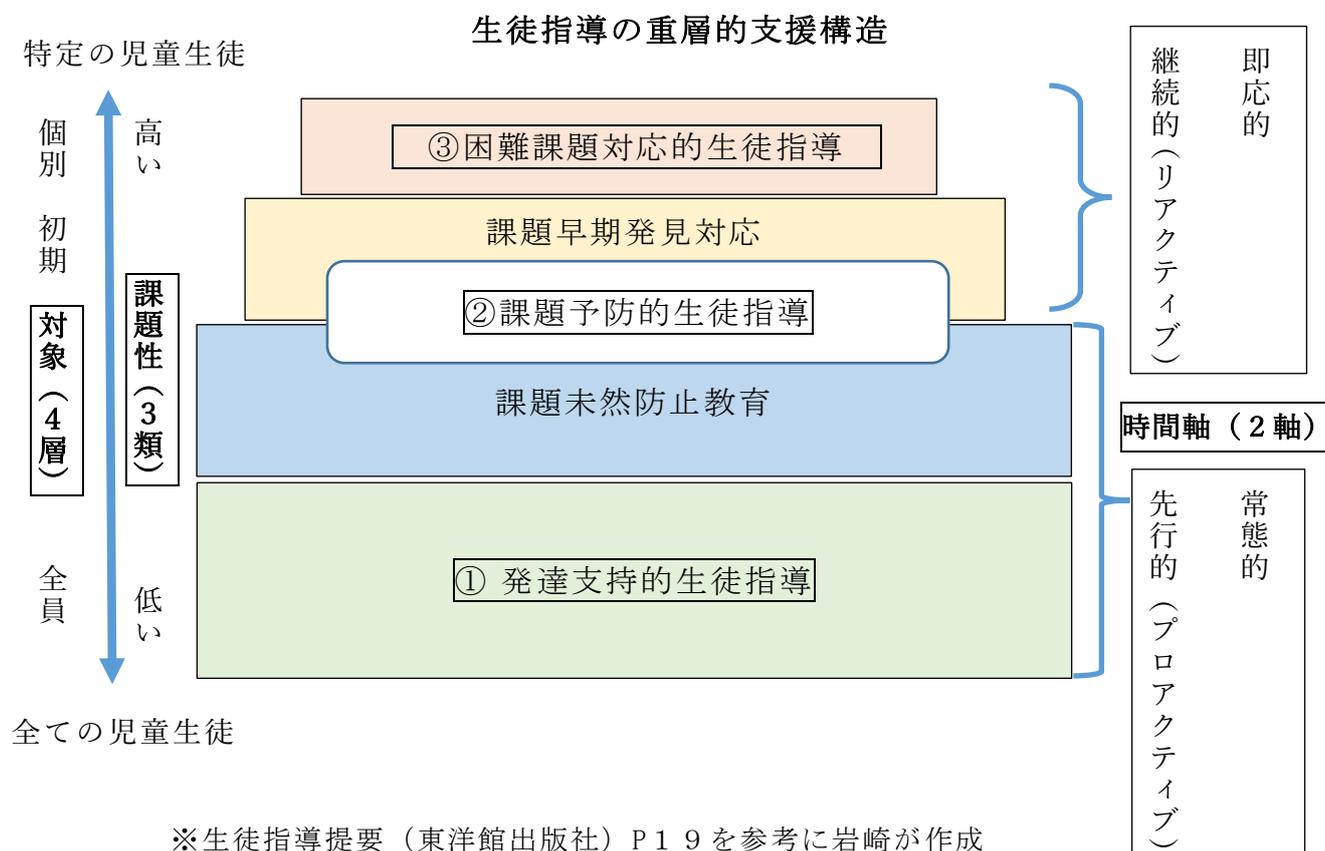
「不登校になってからいちばん言われた言葉は「頑張れ」でした。



これは「不登校の歩き方（主婦の友社刊）」に掲載されている不登校経験者の言葉です。私自身がそうであったのではないかとドキッとしました。

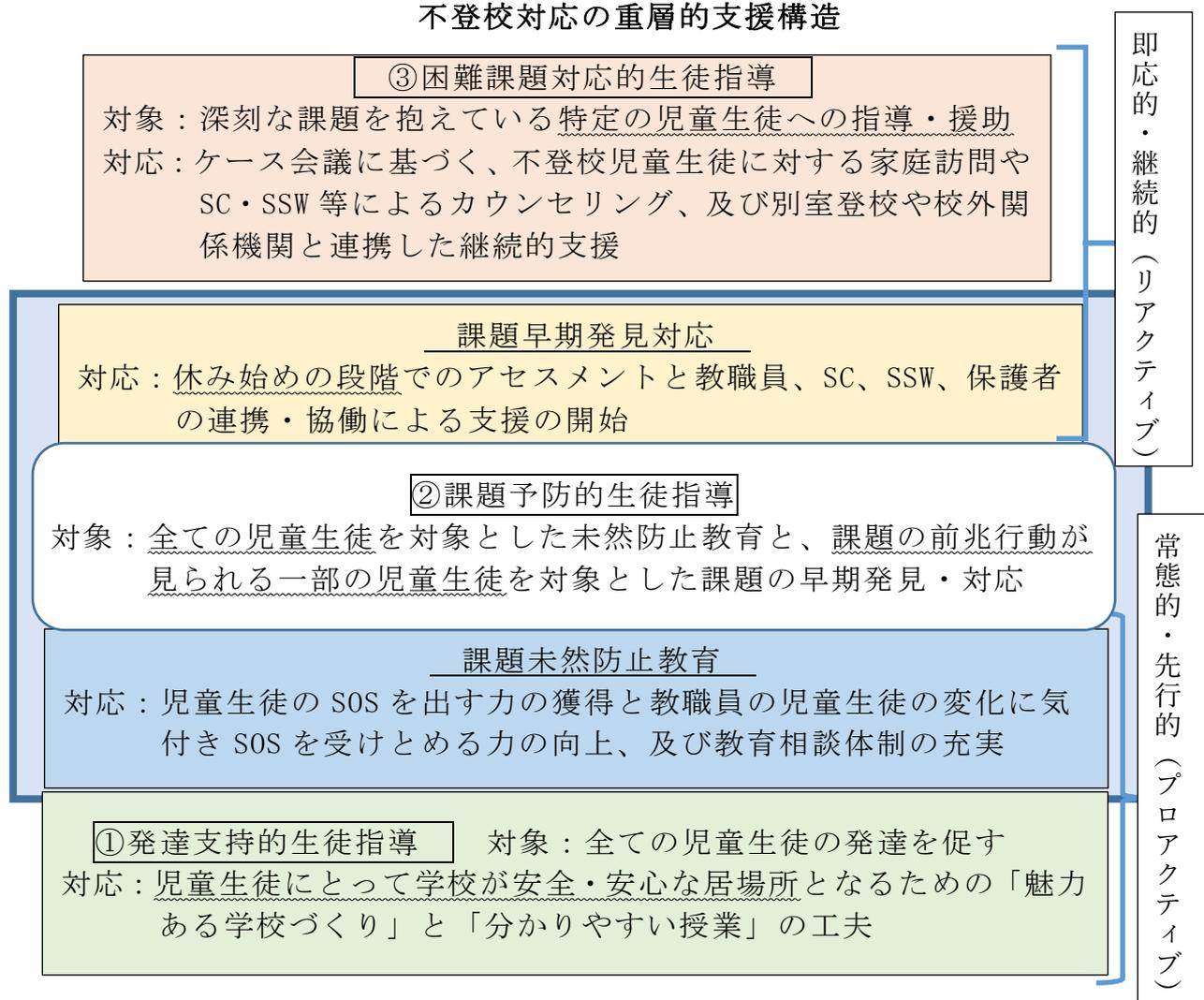
不登校の児童生徒数は増加の一途をたどっています。益田管内も同様で、令和4年度は過去最多の数となっています。各校においては、欠席が続いてきた児童生徒に対しての「初期対応」や居場所の確保、不登校の長期化が懸念される児童生徒に対して、学校内外の支援者や支援機関につなぐ取り組みに日々ご尽力いただいています。一方で不登校の支援にあたって先生方から「急に欠席が増えたが、原因がよくわからない」「欠席が長期化すると学校だけでは対応が難しい」という言葉を耳にすることがあります。

不登校対応について考える際の指針となるのが、昨年12月に改訂された「生徒指導提要」です。今回の改訂にあたり生徒指導上の諸課題への対応が2軸（時間）3類（課題性）4層（必要な対応）で構造化されました。



この重層的支援構造は、不登校対応では以下ようになります。

不登校対応の重層的支援構造



※生徒指導提要 (東洋館出版社) P229 を参考に岩崎が作成

学校での不登校対応は、「①発達支持的生徒指導」に始まります。児童生徒にとって学校は「安全」「安心」な居場所ではなくてはなりません。「魅力ある学校づくり」や「分かりやすい授業づくり」について、私たち指導主事も学校のお力になりたいと考えています。

「②課題予防的生徒指導」の推進にあっては、児童生徒の変化に気付き、初期対応につなげることができる教育相談体制や校内組織の充実が不可欠です。スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を交えた支援チームでの対応が必要な場合もあります。ケース会では状況報告だけでなく、具体的な目標を立てることで本人や保護者、支援者が同じ方向性で関わっていくことができます。

「③困難課題対応的生徒指導」に関わることで、冒頭に紹介した「不登校の歩き方」にこんな記述がありました。

不登校の歩き方は、子どもの数だけある

今、その子が「どこを歩いているのか」を本人や保護者とのやりとりからアセスメントし、「どこに向かいたいのか」を一緒に考えていく必要があると考えます。行き

先は学校だけではありません。平成28年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立し、不登校に関して学校や教育関係者が一層充実した支援や家庭への働きかけを行うとともに、学校への支援体制を整備し、関係機関との連携協力等のネットワークによる支援の充実を図ることの重要性が強調されています。益田管内の各市町での支援機関について紹介します。

益田市の支援機関

担 当：植田幸司

連絡先：益田市教育委員会 学校教育課【0856-31-0445】

①心のかけ橋（学校に行くことに困難を抱えている児童生徒・保護者相談）

それぞれの子どもたちの状況を見ながら、スポーツ・調理活動などの楽しい活動をしたり、静かに過ごしたりして、子どもたちが安心して過ごせる場所を提供しています。

【場所】内田交流センター2F 【時間】毎週金曜日 10:30～15:00

②益田市適応指導教室・ふれあい学級（不登校児童生徒の居場所・保護者相談）

益田市、鹿足郡の小中学校に在籍する児童生徒で、主として不登校及び不登校傾向のある子どもたちの相談を受け付け、スポーツや会話、ゲームなどをして過ごす居場所の提供、また学習の支援なども行っています。

【活動場所】子ども若者支援センター2F 【開所時間】月～金 9:00～15:30

③志塾フリースクール いわみ教室（民間の不登校児童生徒の居場所）

不登校の状況にある児童生徒の居場所、学びの場です。民間の施設のため利用料が必要となります。

【活動場所】NPO法人 志塾フリースクールいわみ教室

【開所時間】月・火・木・金曜日 10:00～16:00

津和野町の支援機関

担 当：渡邊純一

連絡先：津和野町教育委員会【0856-72-1854】

①フリースペース さぶみ

主催：NPO法人さぶみの（津和野町委託事業）

【場所】左鐙コミュニティーセンター（旧左鐙小学校）

【時間】毎週 火・木曜日 9:00～16:00（何時に来て何時に帰ってもOK）

【その他】費用：300円/回（保険代・食材費）

②おむすび

主催：津和野町SSW（居場所支援事業）

【場所】津和野町民センター

【時間】毎週 水曜日 10:00～14:00（日時が変更する場合があります）

③アルモンデ食堂・月曜フリースペース

主催：地域の有志

【場所】 Some more（津和野町鷺原）

【時間】 毎週月曜日

※子どもたちにとって安心できるかかわりや居場所づくりなどの活動も行っています。

吉賀町の支援機関

担 当：高橋晶子

連絡先：吉賀町教育委員会【0856-77-1285】

○心のかけ橋

【場所】 基幹集落センター

【時間】 現在月1回開所

※学校へ行くことに困難を感じている小中学生が心にエネルギーを貯めていく場所です。スポーツ、調理、遊びなどをしながら子どもたちが安心して過ごせる場所を提供しています。必要に応じて相談員が家庭訪問や保護者・教育関係者との相談を行います。



みんなでつくるランチは絶品！ お菓子作りにも挑戦！

それぞれの支援機関について詳しく知りたい、つなげたいと思われた方は各市町の派遣指導主事にお問い合わせください。

不登校児童生徒に限らず児童生徒の「最終的な行き先」は、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立していくことだと考えます。支援者には、児童生徒がそれぞれの「行き先」に向かって歩いていけるように働きかけることが求められます。

最後に、もうひとつ「不登校の歩き方」にあった一文を紹介します。

このままでいいと思っている子はひとりもない。



コラム



中学3年になってから病院に通い始め、薬を飲みながら登校していた生徒がいました。「先生、夕べ12時くらいから、覚えてないんだけどパニックになって、『嫌だ・・・いやだ・・・』ってぶつぶつ呟いてたらしいんよ。・・・朝起きたら、ほら」と見せてくれた左の手首には、数本の赤い筋がありました。何だか教室に入れなくなって、でも学校には行きたいと毎日やって来て、時には薬の飲みすぎで崩れるように保健室に倒れ込んできた彼は、それでも学校で、みんなと、勉強したかったんです。

「パニックになった夜に呟いていたらしい『嫌だ・・・いやだ・・・』っていうのは、多分（中学）1年の4月の時のことを思い出していたんだと思う・・・。」って、じゃあ、君は2年間ずっとそんな気持ちを抱えながら学校に来てたの?! 明るくて優しいと誰もが認める真面目な君が?!

・・・私たちは誰も、2年間も全く気づいていませんでした。彼は大丈夫って思っていました。私たちは何も見えていませんでした。みんなと一緒に勉強したい! と強く願う生徒が学べない学校って、一体何なんだろう。その後、出来るだけ寄り添い、話をし、話を聴きましたが、でも、彼はそのまま卒業していきました。

必死に頑張ろうとしている生徒一人を支えられない学校に何の意味があるのか……。後悔の念ばかりが残った1年の苦い思い出です。

追記

卒業後、彼は特技を生かして進学し、元気に高校に通いました。1年の1学期には何度か『きついです...』というメールが来ましたが、その度に返事を打ったり時には会いに行ったりしました。そのうち「いろんな奴がいて結構面白い。」「実習とか専門的な内容とかあって授業は楽しい。」と言うようになりました。入学以来、1度も保健室にも行かず、欠席もせず、打ち込めることや目標もできて、「いい感じで1学期を終えられそうだ」とも言っていました。

(その後、彼は無事高校を卒業しました)

(M)